

【結果公表】

第2期弥富市子ども・子育て支援事業計画（素案）に対するパブリックコメントの実施計画については、以下のとおりです。

案件名	第2期弥富市子ども・子育て支援事業計画（案）		
募集期間	令和2年1月6日（月）～令和2年1月31日（金）		
担当課	民生部 児童課		
募集結果の概要	第2期弥富市子ども・子育て支援事業計画（案）に対する意見を募集した結果、4名の方から20件の意見・提言が提出されました。		
意見提出数	持 参	4人	20件
	郵 送	0人	0件
	ファクシミリ	0人	0件
	電子メール	0人	0件
	合 計	4人	20件

提出された意見の概要と市の考え方

ページ番号	ご意見・ご提言の概要	市の考え方
P3	第2次弥富市総合計画「“市民主体”を基本とし」 市民が先頭に立って子育て事業を変えていけるなんてとても嬉しいです。具体的にはどのようなことが「市民」の意見を「主体」としてくれるのでしょうか？	第2次弥富市総合計画は、市民の参画と行政との協働による“市民主体”を基本とした計画を掲げ、総合計画の策定段階から市民参画を取り入れてきました。総合計画では、市民と行政が一体となって行政運営ができるように、分野別・事業別に市民等との協働による取組を明記しています。
P4	「まちぐるみの新しい子ども・子育て支援」 隣近所との関係が希薄な世の中なので、こちらは本当に大切なことだと思います。	
P20	⑥いじめ認知件数の推移 平成30年に81件と急激に増加しているが、これは調査方法の問題なのか。 この81件の対応は大丈夫なのか不安。 ⑦不登校児童・生徒数の推移 過去5年間を見ると平成30年が一番多くなっている。不登校は、長引くほど学校生活への復帰が難しくなってしまうと思う。	
	⑥・⑦ 難しい問題ではあるが、一日でも早く解決できるよう学校だけでなく、行政ももっと真剣にとらえたほうが良いと思う。 「小1の壁」という言葉がP43・48に出ているが「中1のギャップ」についてももっと考えるべきだと思う。小学校統廃合のことにもつながってくるのではないかと。人数が多くなる程、教員の目が行き届かなることは安易に想像できると思われる。	いじめ認知件数の急増については、これまでで調査方法を変更したことによるものです。従来は、「いじめ防止基本方針」における重大事態となる可能性があったものを計上していました。平成30年度の調査より、いじめに関するアンケートなどで「嫌なことを言われた」「陰口を言われている気がする」「友達が嫌なことをされていた」と言うようなケースについても計上するようになったためです。 いじめ・不登校問題については、重大な問題と捉えています。 いじめ・不登校の原因が多岐にわたる中、兆候を見逃さないよう保護者、学校、教育委員会が連携して対応しています。 また、「小1の壁」「中1ギャップ」に対しては、幼保・小・中の連携を高め、体験入学や、事前説明会、さらには就学相談を充実させるなど対応しています。

ページ番号	ご意見・ご提言の概要	市の考え方
P32	<p>「待機児童0人」本当に素晴らしいです。ありがとうございます。</p> <p>一時預かりのニーズが高まっている。</p> <p>現在、市内の一時預かりは白鳥保育所のみですが、自宅から車で片道30分と不便さを感じています。ニーズが増えているとのことですし、もう1箇所増やせないでしょうか。</p>	<p>今後市民の方がさらに利用しやすい事業となるよう、利用実績やニーズ調査により、ニーズの把握に努めていきます。</p>
P36	<p>放課後の居場所</p> <p>名古屋市のようにトワイライトを導入するのはいかがでしょうか。移動がないので安全です。また、シルバー人材の方や未就園児のお母さんなど、社会に貢献したい方にボランティアをお願いしたり、最低賃金で雇用することで、家庭・地域・学校が一体となって子育てする環境にもなると思っています。</p>	<p>現状弥富市では、児童館・児童クラブの充実を推進しており、放課後子ども教室の設置をしておりません。</p> <p>しかしながら、ご指摘のとおり放課後の居場所については、国の「新・放課後子ども総合プラン」によると、今後の女性の就業率の上昇を踏まえ、放課後児童クラブの需要が、さらに高まることが予想されています。</p> <p>弥富市では、引き続き放課後児童クラブの充実に努めるとともに、体験や多世代交流など多彩なプログラムを提供できる放課後子ども教室の実施について、庁内の連携を図り、学校の空き教室の状況や地域の協力を求めながら市としての取り組みを計画的に検討していきます。</p>
P43	<p>待機児童無し、無償化</p> <p>弥富市は保育施設が充実しており、大変有難いです、ありがとうございます。</p> <p>昨年度より無償化が始まっており、ママ友の間では幼稚園の必要性を感じる声が上がっています。下の子が小さくて、働きたくても働けないなど、事情がある中で、市内の幼稚園が1か所しかないため、保育園を選択せざるを得ない方もいるようです。市が運営する幼稚園をつくるなど、何かいい案があればいいと思っています。</p> <p>幼稚園が弥富市にはなぜないのでしょうか？</p> <p>保育園が無償対象でない人は幼稚園でないとお金がかかります。はばたきは紹介がいるし、満員です。</p>	<p>ご意見として賜り、幼稚園と保育所、認定こども園を含め、本市の就学前施設として、市民の方が利用しやすい施設となるよう事業推進していきます。</p> <p>現在まで保育所が充実していたため、幼稚園を設置しておりません。幼稚園、保育所、認定こども園のそれぞれの役割、さらには公立、私立のそれぞれの役割があるため、相互の施設が協働できるような事業推進していきます。</p>

ページ番号	ご意見・ご提言の概要	市の考え方
P43	<p>幼・保・小の連携強化</p> <p>保育園と幼稚園に通う子では、それまでの保育環境が違うため、小学校に通う時に差が出ることはあると思います。</p> <p>座るのに慣れている子はいいですが、そうでない子は初めは難しいので、先生方も大変かと思います。ぜひ連携を進めてほしいです。</p> <p>どのような連携をするのでしょうか？</p> <p>小1で机に座らせるための教育ということですか？</p> <p>子どもは身体が未熟なので勉強したり、集中したりする時に脳に血液を回すために身体を動かす必要があって、立ち上がったり動き回ったりするそうです。</p> <p>落ち着きがない子どもは食べる物の影響が大きいとも聞きます。給食の質を高める、お米給食にするなども効果があるそうです。</p> <p>今現在は年明けに小1の子と交流を1日設けていると思いますが、1日だけではなく、何回も小学校に足を運んだり、小1の子だけでなく、いろいろな学年の子と交流する機会があってもいいように思います。</p> <p>一緒に遊ぶだけではなく、授業中の風景を見たり実際教室の席に座ってみたりなど、プチ体験を試してみるのもいいのではないのでしょうか。</p> <p>また、小学校の子が保育所・幼稚園に遊びに来る機会があってもいいと思います。小1になったからといってすぐ集団行動をしないといけないとか、授業中座らないといけないとするのではなく、子どもたちが自然に身に着けられるような配慮を望みます。小学校6年間で子どもは大きく成長します。どうか温かい長い目で見守っていただけたらと思います。</p>	<p>市の考え方</p> <p>幼稚園では「幼稚園教育要領」、保育所では「保育所保育指針」、認定こども園では「認定こども園教育・保育要領」に基づき教育・保育を実施しています。それぞれ利点を活かし、等しく質の高い就学前教育・保育が提供できています。今後も引き続き、一人ひとりの育ちを見通し、一貫した就学までの教育・保育を提供していきます。</p> <p>また、0歳児の段階から小学校に向けて一貫性のある教育・保育が重要だと考えています。現在、保育所と小学校とで交流日を設け、小学生とふれあい、授業風景や校内の見学などを実施しております。また、学校の行事などに参加するなど、小学生との交流を深めていきます。</p>
P43	<p>生きる力</p> <p>市が考える「生きる力」とは、どのようなものでしょうか。</p> <p>個人的には生きる力は、経験を通して養われると思います。</p> <p>それに反して、子どもが経験できることが昔より減っていると感じています。小学校の部活がなくなったり、運動会などの行事が簡素化されたりしているのが気になります。先生方も忙しいので大変だと思いますが、外部講師に委託するなど工夫ができればいいと思います。夏休み中は学生アルバイトさん（教師を目指している方）など、地域ぐるみで活動できたら楽しそうです。</p> <p>また、小中学校の統廃合は、沢山の人に触れることができるようになるため賛成です。出来るだけ早く進めて頂ければ嬉しいです。</p> <p>今回の内容とは少しズレますが、弥富市の給食はとても良いと聞いています。近隣が給食センターに移行する中、自校での調理をしていただいたり、地産地消を意識されていると聞きました。子どものためにご尽力いただき、本当にありがとうございます。</p> <p>「生きる力」とは具体的に何なのかもわかりませんでした。全てに具体的な取り組みが知りたいです。</p>	<p>文部科学省は平成20年に小・中学校の学習指導要領を改訂しており、子どもたちの現状をふまえ、「生きる力」をはぐくむという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しており、「生きる力」とは、変化の激しいこれからの社会を生きるために、①自ら考え、判断し表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する学力、②自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、③たくましく生きるための健康や体力を掲げています。</p> <p>家庭や地域は、基本的な生活習慣や社会のルールなどを身につける場であると同時に、自然体験や社会体験、ボランティア活動、スポーツ活動、世代を超えた交流活動などを通じた重要な「学び」と「育ち」のフィールドであり、学校と共に子どもをはぐくむ当事者としての責任を有していることから、庁内関係計画の事業推進と整合を図りながら、学校、家庭、地域の協働の営みとして、地域住民、NPO等、幅広い方々の参画により事業推進してまいります。</p>

ページ番号	ご意見・ご提言の概要	市の考え方
P46	<p>育児サークル</p> <p>地域での子育てを目指して、月一でママ会を行っているのですが、個人で周知するには限界があります。市役所でチラシを置かせていただくなどの連携は可能でしょうか。</p> <p>子育て支援団体、育児サークルとありますが、市の子育て情報としてサークルがあることを伝えていないと思います。児童館にチラシや案内やマチレット、市のHPに掲載がなどの必要があると思います。</p>	<p>本計画内容においても、地域や子育て支援を行う団体等と密接に連携、協力して、子どもの成長に応じた適切な支援が受けられる、子育てしやすい環境の整備を進めるとしています。育児サークル周知のため、市役所、子育て支援センター、児童館に案内チラシを置かせていただく等のご意見については積極的に協力してまいります。</p>
P47	<p>ファミリー・サポートセンターについて</p> <p>1回利用無料や1回目半額など、スタートを使いやすくしていただけたら利用が増えるのになあと感じたりします。私は一度も利用したことがありません。どんな人に預けられるかが不透明だからです。もう少しオープンにして、利用しやすい仕組みだと嬉しいです。</p>	<p>本事業については、広報、ホームページ等で周知を図っておりますがまだまだ認知度が低く、援助会員の人数が十分に確保できていないことが課題です。市民の方に本事業の周知を行い、援助会員、利用会員ともに会員数の確保に努め、利用しやすい事業としていきます。</p>
P48	<p>「放課後の居場所づくりの推進」について</p> <p>近くの市町村で実施している「トワイライトスクール」を弥富市でも実施されることを望みます。</p> <p>放課後や土曜に小学校施設を活用し、学年の異なる友達と自由に遊んだり、学んだり、体験活動に参加したり、地域の人々と交流することを通じて子どもたちの自主性・社会性・創造性を育むことを目的として挙げられています。</p> <p>学生アルバイトを募ったり、高校生のボランティア、地域の高齢者の方々にも協力してもらうことで、いろいろな年代の方たちとの交流も図られると思います。</p> <p>案に「多様な体験活動を通して子どもたちの生きる力を育み、調和のとれた発達を図る必要があります。」と書いてありました。</p> <p>具体的にどのようなことをしたら子どもたちの「生きる力」が育まれていくのか今一度見直し、迅速に対応していただきたいです。</p> <p>学童はうわさを聞くと中身が場所によってひどいようです。安心して預け、働くことのできる場づくりをしていただきたいです。地域の協力が得られるような学童をつくることは可能でしょうか。</p>	<p>現状本市では、児童館・児童クラブの充実を推進しており、放課後子ども教室の設置をしておりません。</p> <p>しかしながら、ご指摘のとおり放課後の居場所については、国の「新・放課後子ども総合プラン」によると、今後の女性の就業率の上昇を踏まえ、放課後児童クラブの需要が、さらに高まることが予想されています。</p> <p>本市では、引き続き放課後児童クラブの充実にも努めるとともに、体験や多世代交流など多彩なプログラムを提供できる放課後子ども教室の実施について、庁内の連携を図り、学校の空き教室の状況や地域の協力を求めながら市としての取り組みを計画的に検討していきます。</p> <p>現在、本市では放課後児童支援員の資質向上のため積極的に研修受講の機会を設けております。今後も質の高い支援を提供できるよう努めてまいります。</p> <p>また、引き続き放課後児童クラブの充実にも努めるとともに、体験や多世代交流など多彩なプログラムを提供できる放課後子ども教室の実施について、庁内の連携を図り、学校の空き教室の状況や地域の協力を求めながら市としての取り組みを計画的に検討していきます。</p>

ページ番号	ご意見・ご提言の概要	市の考え方
P71	<p>ファミリー・サポート</p> <p>両方会員に登録しています。幼い子どもがいる登録者にも仕事が回ってきたらいいのと思います。登録時に幼い子どもがいると仕事がなかなかないと聞いており、それもとてよく分かります。預ける立場だと、同じくらいの子どものいる家庭も選択できたらいいのでは、と思いますし、働きたくても働けない方の雇用先になればいいと思います。</p>	<p>本事業については、援助依頼内容と援助する側の都合が合わないことも多く、会員の希望通りに援助依頼するのが難しいのが課題です。市民の方に本事業の周知を行い、援助会員、利用会員ともに会員数の確保に努め、利用しやすい事業としていきます。</p>
P75	<p>妊婦健康診査受診票について</p> <p>妊婦健康診査受診票が14回分では足りなかった。子どもを産む前に検診でお金がかかり、産む時にもお金がかかり、育てるのにもお金がかかるのが現実。子どもの医療費はとても助かっているが、他にも弥富市で子育てがしやすくなる独自の金銭的援助があったら良いと思う。弥富市で子育てするメリットはあまりないように感じている。</p>	<p>妊婦健康診査の回数は、厚生労働省が示す基準に「14回程度」とあり、本市と同様ほとんどの市町村でも14回分の受診票を交付していますが、14回分すべてを利用する妊婦も少ないことから、今のところ受診票を増やすことは考えておりません。一方で、歯科健康診査については、当初は妊婦のみを対象者として受診票1回分を交付していましたが、本市では他市町村に先駆け、平成23年度から産後1年以内に受診できる受診票を追加交付しています。</p> <p>また、平成30年度から他市町村と同様に産婦を対象とした受診票1回分を追加するとともに、令和元年度から産後の体調不良や育児不安を抱える母子を対象に、医療機関で宿泊してサポートを行う産後ケア事業を実施しています。</p> <p>次に、健康診査以外の支援事業としては、核家族化が進み孤立しがちな妊婦及び母子への支援体制の充実を目的に、令和2年7月から新庁舎3階の保健センター内に「子育て世代包括支援センター」を併設し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない相談・支援体制を確立することで、育児不安や虐待の予防に努めていきます。</p> <p>また、不妊で悩んでいる夫婦の経済的負担を軽減するため、すでに実施している一般不妊治療（人工授精）費助成制度の条件を、令和元年度から一部拡充したほか、愛知県が助成制度を設けている特定不妊治療（体外受精等）費についても、令和2年度から本市が上乗せ補助（上限3万円）を実施するよう準備を進めています。</p>